

① 事前の研究

指導要領の分析，県内のおもな使用教科書の内容調査によって，学力検査問題の素材をととのえ，ペーパーテストで可能な限りの範囲を対象にして，検査領域を設定し，評価の観点と，それに対応する作問の研究を行なった。

- ア 指導要領の分析 4月20日～5月20日
- イ 領域・観点の設定 4月20日～5月20日
- ウ 教科書の分析 7月1日～8月1日

② 問題の作成

ア 第1次案の作成 5月20日～8月15日  
第1次案は，上記事前の研究にもとづいて，それと並行して作成した。

イ 第1回学力検査問題審議会

診断と概観の両性格を帯びた学力検査問題の，問題領域や問題の観点の設定，問題の第1次案などについて主として，内容的な妥当性について検討した。

社会	9月9日～9月10日
理科	9月14日～9月15日
英語	8月27日

学力検査問題審議会の構成は次のとおりである。

社会科部会

福島大学学芸学部教授	安田 初雄
県教委指導室指導主事	赤津 千町
信夫出張所指導主事	山内 兵衛
福島大学付属中学校教諭	大橋 睦也

理科部会

福島大学学芸学部教授	窪田 実
県教委指導室指導主事	若杉 栄
伊達出張所指導主事	平田 義教
福島大学付属中学校教諭	小林 四郎

英語部会

福島大学学芸学部教授	小川 武二
県教委指導室指導主事	石川 衛三
福島高等学校教諭	金子 順一
福島大学付属中学校教諭	遠藤 忠蔵

ウ 第1回予備テスト 10月27日

第1回学力検査問題審議会で決定した問題の小問正答率の配列が，適当であるかを検討し，問題の修正や補充の資料を得るために実施した。標本校は，地域類型と学校規模を考慮し，県北地区から下記の規模により選定した。

社会	中学1年	11校	1,194名
	中学2年	11校	872名
理科	中学1年	11校	1,144名
	中学2年	11校	913名
英語	中学3年	8校	873名

エ 第2回予備テスト 12月8日

第1回予備テストの結果から修正補充した問題の

統計的な妥当性，および，所要時間を検討する材料を得るために実施した。標本校の選定は，第1回予備テストと同じ方針で，下記の規模で行なった。

社会	中学1年	12校	1,045名
	中学2年	10校	926名
理科	中学1年	12校	1,016名
	中学2年	11校	877名
英語	中学3年	9校	891名

オ 第2回学力検査問題審議会

学力検査問題の第2次案を，第2回予備テストの結果から修正補充した内容を検討し，成案をつくった。

社会・理科・英語 1月7日

なお，審議員の構成は，第1回審議会と同じである。

(3) 標準化のための調査

① 標本校

標本校の決定にあたっては，地域類型と学校規模によって層化し，比例割り当てによることとし，無作為抽出を行なった。なお，各出張所管内に標本校が選定されるような配慮をした。

社会	中学1年	24校	1,486名
	中学2年	23校	1,414名
理科	中学1年	23校	1,494名
	中学2年	22校	1,358名
英語	中学3年	23校	1,241名

② 本調査 3月4日

標本校における本調査実施にあたっては，各出張所の指導主事を調査立会人として派遣し，学校側と協力して全般的な管理運営をさせることにし，学校のテスト補助員によって調査させることにした。調査終了と同時に答案を返送することにして，採点等は研究所が当たった。

③ 標準化 3月8日～3月25日

標準点は，標本誤差をなくすために，換算Tスコアで示すことにした。

検査を実施した学校へは，さしあたり，標準点と小問別正答率を送付してあるが，答案の分析を行なって「診断と指導」の資料を報告書の形で各学校へ配布する計画である。

8 全国教育研究所連盟共同研究 (4年継続)

—生活指導—

(1) 研究主題

- 現代の子どもの理解とその指導に関する研究(全国)
- 小学校児童の主体性の形成過程(福島県)